

## [成果情報名]ダリアの冬春出し作型における大苗、暗期中断電照および高節位採花を組み合わせた多収生産技術

[要約]ダリアの冬春出し作型において、2.5号ポットに鉢上げした大苗を定植し、暗期中断電照3時間で長日処理を行い、採花位置は切り花長70cmを確保した最上位の節とすることにより、採花本数が増加し、一番花の舌状花率が高まる。

[キーワード]ダリア、大苗、暗期中断、高節位採花

[担当]福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター・苗木・花き部・花きチーム

[代表連絡先]電話 0943-72-2243

[分類]研究成果情報

### [背景・ねらい]

近年、ダリアの周年的な需要の伸びに伴い、県内においては冬春出し作型の電照加温栽培が増加している。しかし、この冬春出しの作型では舌状花の減少による露心花の発生や冬期の低温による収量の低さなどが問題となっている。

そこで、舌状花の増加に効果がある「暗期中断電照」と収量性を確保するための「大苗」および「高節位採花」を組み合わせた高品質な切り花の安定的な多収生産技術を確立する。

### [成果の内容・特徴]

1. ダリアの冬春出し作型で安定多収を図るには、慣行のセル苗定植よりも3～4週間程度早く苗購入もしくは挿し芽を行い、2.5号ポットに鉢上げし、育成した大苗を8月下旬～9月上旬に定植し、定植直後から暗期中断電照（23時～翌2時）を行い、高節位（切り花長70cmを確保した最上位の節）で採花する（図1）。
2. 大苗で定植し、暗期中断電照および70cm採花を行うことで、慣行と比較して、一番花の舌状花率が高くなり、「黒蝶」の花径はやや大きくなる。開花日は一番花で遅くなり、二番花で早まる（表1）。
3. 採花本数は慣行と比較して、「かまくら」で130%、「黒蝶」で154%に増加する（図2）。
4. 10a当たりの所得は慣行と比較して、175%となる（表2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. ダリアの冬春出し作型における栽培技術として活用できる。
2. 本技術は電球色蛍光灯を用いた結果であり、異なる光源を用いる場合は電照の効果に留意する必要がある。
3. 本技術は9月1日に定植を行った結果であり、大苗を8月下旬～9月上旬に定植する必要がある。
4. 本技術の増収効果は品種によって異なる。
5. 本技術の比較対象とした慣行栽培は、7月下旬～8月上旬に128穴セル成型トレイに挿し芽、8月下旬～9月上旬に定植し、定植直後から明期延長電照（14.5時間日長）を行い、低節位（側枝基部2節を残す）で採花する。

[具体的データ]

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	・・・	5月
作業・処理	挿し芽 育苗	鉢上げ (苗購入)	育苗	定植	摘心		収穫開始		収穫終了
	← 暗期中断電照 (23時~翌2時) →								

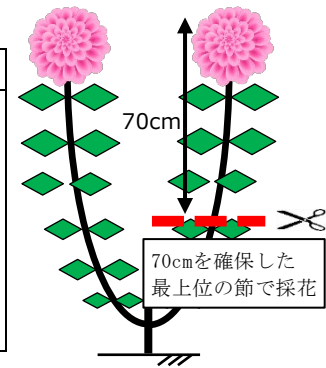


図1 ダリア冬春出し作型における大苗、暗期中断電照および高節位採花による多収生産技術の概要

表1 電照方法、採花位置および定植苗の大きさの違いが切り花品質に及ぼす影響 (2018年)

試験区	苗の大きさ	日長処理	採花位置	かまくら				黒蝶				
				開花日	花径 (cm)	舌状花率 (%)	正常花率 (%)	開花日	花径 (cm)	舌状花率 (%)	正常花率 (%)	
一番花	多収	大苗	暗期中断	70cm	12/23	12.2	85	100	12/25	19.9	90	100
	慣行	セル苗	明期延長	2節	12/4	12.3	71	98	12/18	19.0	77	78
二番花	多収	大苗	暗期中断	70cm	3/9	13.7	80	90	3/25	20.7	88	100
	慣行	セル苗	明期延長	2節	3/23	13.6	78	99	4/14	19.0	89	100

- 注) 1. 暗期中断は23:00~翌2:00まで3時間電照、明期延長は日没後+夜明け前に電照し14.5時間日長。  
 2. 採花位置の70cmは切り花長70cmを確保した最上位の節で採花、2節は側枝基部2節を残して採花。  
 3. 摘心後、4本/株に仕立て、二番花以降は無整枝。最低温度10℃で管理。  
 4. 舌状花率は、舌状花数÷総小花数、正常花率は、露心花ではない花の切り花本数÷総切り花本数。

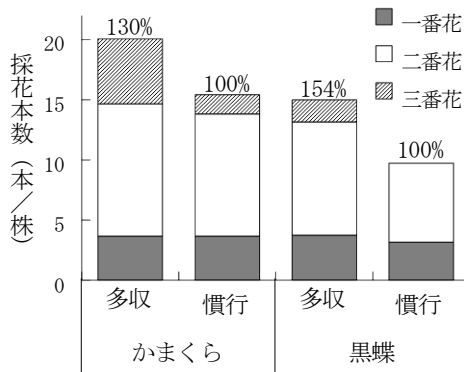


図2 電照方法、採花位置および定植苗の大きさと採花本数 (2018年)

- 注) 1. 試験区の設定は表1と同じ  
 2. 採花本数は、切り花長70cm以上かつ露心花ではない切り花本数  
 3. 平成30年9月1日~令和元年5月10日における切り花本数

表2 10a 当たりの経営試算

試験区	粗収益 (万円)	経営費 (万円)	所得 (万円)
多収	680 (144%)	379 (126%)	301 (175%)
慣行	471	299	172

- 注) 1. ( )内は、慣行比を表す。  
 2. 「かまくら」、「黒蝶」の栽培比率は1:1とした。  
 3. 粗収益は、月別販売単価 (大田花きの三年平均 (H28.7~R1.6)) と月別採花本数を乗じて試算した。  
 4. 10a 当たり 2400 株定植し、内 25% を購入苗とした。  
 5. 自家労働時間は 795 時間で試算した。  
 6. 雇用労賃は、労働時間を多収:577、慣行:175 時間として、労働単価 814 円/時間で試算した。

(福岡県農林業総合試験場)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2016~2018 年度

研究担当者：瀬戸山修仁、巢山拓郎、中村知佐子 (福岡農林試資活セ)

発表論文等：1) 瀬戸山ら (2021) 福岡農林試研報、印刷中